

日本最大の中世都市遺跡の歴史をたどる

戦国大名・朝倉氏が築いた城下町全体の跡が良好に残り、278haという広大な範囲が国の特別史跡として指定される日本最大の中世都市遺跡「一乗谷朝倉氏遺跡」。

この遺跡の価値や朝倉氏の歴史を楽しみながら学べる博物館「福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館」が2022年10月に開館しました。

一乗谷の栄華を物語る、五代当主・義景の居館を蘇らせた「朝倉館原寸再現」。遺跡内の武家屋敷や寺院、町屋を1/30スケールで再現し、人形たちの表情まで豊かに表現した「城下町ジオラマ」。川湊「一乗の入江」の船着場と考えられる、石敷遺構をそのまま露出展示する「遺構展示室」に加え、国指定重要文化財を含む数多くの出土資料が、映像などと合わせ、わかりやすく展示されています。



川湊「一乗の入江」の船着場と考えられる石敷遺構をそのまま露出展示



福井県立 一乗谷朝倉氏遺跡博物館

【住所】福井県福井市安波賀中島町8-10

【お問い合わせ】0776-41-7700(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館)

【時間】9:00～17:00 【休日】月曜、年末年始

【駐車場】あり



JAPAN HERITAGE
日本遺産

越前若狭 歴史巡り

史跡に残る物語

100年に及ぶ“第2の京都”は夢の跡

一乗谷 朝倉氏遺跡

いちじょうだに あさくらしいせき
【福井市】

あさくらやかたあと からもん 朝倉館跡・唐門

朝倉氏5代目・朝倉義景の館跡はその広さが約6400㎡あり、その繁栄の規模を感じることができます。遺跡のシンボルでもある唐門は、朝倉義景を弔うために建てられた寺院「松雲院(しょううんいん)」の山門で、江戸時代中期に造られました。

(1991)に庭園が特別名勝、そして平成19年(2007)に出土品が重要文化財と、全国でも6例しかない国の「三重指定」を受けました。これは金閣寺や銀閣寺、醍醐寺、厳島神社、平城京と同じで、文化財としての高い評価を得ています。

三方を深い山に囲まれ、天然の要塞“として室町時代から戦国時代にかけて、103年の栄華を誇った一乗谷。越前の大名へと上り詰めた朝倉氏は、この地に城を構え、越前の実効支配を行っていました。当時、応仁の乱で京の都は荒廃、多くの文化人や高僧が一乗谷に避難、彼らによって京文化が入り込み、華やかな「一乗谷文化」へと発展していきます。第4代朝倉孝景の頃には、人口が1万人にも膨れ上がったとされています。

しかし天正元年(1573)、「刀根坂の戦い」で織田信長に敗れた朝倉氏は一乗谷を放棄、一乗谷は信長によってすべてが灰燼に帰しました。その後、柴田勝家は拠点を北ノ庄に移し、一乗谷は歴史の中に埋もれていきます。

調査以前は遺跡のほとんどが埋まっていたが、遺跡の歴史が見つめ直されはじめる、発掘調査が行われ、昭和46年(1971)に特別史跡、平成3年

雲海に浮かび上がる天空の城 越前大野城

えちぜんおおのじょう

【大野市】



山あいの街・大野市は寒暖の差が激しい盆地ゆえ、標高249mの亀山に築かれた越前大野城は、10月から4月の明け方には、雲海の上にある小島のように浮かび上がります。「天空の城」の呼称で知られるこの幻想的な風景を一目見ようと、全国から訪れる人が絶えません。

越前大野城は、天正4年（1576）頃、織田信長より大野郡の3分の2を与えられた金森長近により、4年の歳月をかけて築かれました。2層3階建の
大天守、2層2階建の小天守があり、内堀・外堀をめぐらせていたと言われます。石垣は、自然の石をそのまま用いて積む「野面（のづら）積み」という貴重な工法で造られています。

北陸唯一の現存天守

丸岡城

まるおかじょう
【坂井市】



丸岡城は戦国時代真つ只中の天正4年（1576）、一向一揆に備えるために、織田信長の命に従い柴田勝家が甥の勝豊に築かせた城です。

丘陵の上に建つ平山城で、北陸で唯一の現存天守です。昭和23年（1948）の福井地震で倒壊するも、元の木材を70%以上使用し、昭和30年（1955）に復元しました。天守近くにある石碑の「二筆啓上 火の用心 お仙泣か

すな 馬肥やせ」の文は、徳川家康の家臣・本多重次が妻に宛てた「日本一短い手紙」として広く知られています。

「霞ヶ城」の別名のとおり、春には周囲に植えられた400本ものソメイヨシノの中に浮かぶ姿が、ひととき美しく幻想的です。屋根瓦は全国的にも珍しい石瓦で、福井でしか産出されない笏谷石（しゃくたにいし）が使われているのも特徴です。

織田家の氏神として
開運の御利益がある。

劔神社は、1800年の歴史を誇る越前二宮です。戦国武将・織田信長の祖先は、同社の神官を代々務めた由緒ある家柄で、出身地の地名を取って「織田氏」を名乗ったとされます。信長自身、乱世にあっても同社を氏神として尊び、武運長久を祈るとともに、多くの寄進をして保護に努めました。

開運や勝負事に御利益があると、県内外から多くの参拝客が訪れています。神社所有の宝物には、銘入りでは国内で3番目に古い国宝の梵鐘をはじめ、多くの宝物が隣接する越前町織田文化歴史館に展示されています。境内には願いが叶うときには軽く持ち上がり、叶いづらいたきは重くて持ち上がらない「おもかる石」という不思議な石があります。

信長の祖先が守り続けた

劔神社

つるぎじんじや

【越前町】



日本遺産

息をのむほど美しい社殿

岡太神社・大瀧神社

「越前市」
おかもとじんじや・おおたきじんじや

唯一無二の社殿建築には
紙の神様が祀られる。

越前市今立地区は1500年続く越前和紙の産地。この地にある岡太神社・大瀧神社には、紙の神様が祀られています。

今から1500年前、集落を流れる川の上流から女性が降りてきて、紙漉きの技術を伝えたといわれています。その女性「川上御前」を祀っているのがこの神社であり、山頂の奥の院、山のふもとの里宮で成り立っています。ちなみに神社名を併記しているのは、両神社の本殿が奥の院に並んでいることから。

里宮の本殿は、江戸時代後期に当時の技術の粋を集めて再建されたもの。荘厳さと優美さを兼ね備えた全国でも類を見ない姿は必見です。昭和59年（1984）に国の重要文化財に指定されています。

重要文化財に加え、
国の名勝にも選定。

高さ11mの大鳥居は、国の重要文化財に指定され「日本三大木造鳥居」の一つと称されます。氣比神宮の主祭神「伊弉沙別命」は、もともとは敦賀の人々に信仰されていた土着神であり、「古事記」では「御食津大神」、「日本書紀」では「筍飯大神」と称され、現在では氣比大神と呼ばれています。鎮座する前を北陸道が通り、敦賀が古来有数の港であったため、海陸の要衝を守る神として崇敬されるようになりました。

元禄2年（1689）には、松尾芭蕉が旅の途中で夜の氣比神宮を訪れ、境内から月を望んで「月清し遊行の持てる砂の上」と句を残しています。このことから、国の名勝「おくのほそ道の風景地」に指定されました。

窮地を脱した御守り伝説

金崎宮（金ヶ崎城址）

かねがさきぐう（かねがさきじょうし）
〔敦賀市〕

難関突破にご利益、
お市の方の小豆袋。

敦賀市街北部に位置する金崎宮の奥にある金ヶ崎城址は、織田信長が窮地に陥った金ヶ崎の戦いの舞台となりました。

元亀元年（1570）、越前を支配していた朝倉氏に、織田信長、徳川家康、木下藤吉郎、豊臣秀吉らの軍が攻め入ったところ、浅井長政の裏切りにより織田軍は挟み討ちに。このとき、信長の妹であり浅井長政の妻であるお市の方が、両端をひもで縛った小豆の袋を送ったことで信長は状況を察知し、難を逃れたといわれています。

そこへこちらには難関突破のご利益があると、合格祈願や恋愛成就で訪れる人が後を絶ちません。

また、この場所で男女が花を交換すると結ばれるという言い伝えから、4月の桜の時期には「花換まつり」が行われ、多くのカップルが訪れています。

北陸道総鎮守にして越前国一之宮

氣比神宮

けひじんぐう
【敦賀市】





全国でも屈指の水城

小浜城址

【小浜市】
おばまじょうし

京極家の後を継いで
酒井家が完成させた。

小浜城は若狭国を拝領された京極高次により着工が始まりました。この地には後瀬山城という山城がありましたが、利便性の悪さから市内を流れる北川と南川の中州に、慶長6年（1601）に築城が開始されます。

京極家親子2代にわたって工事が行われていましたが、寛永11年（1634）、京極家は完成を見ることなく松江に転封となってしまう。その後、酒井忠勝が入城し、築城と整備が引き継がれます。そして寛永13年（1636）、ついに小浜城天守閣が完成します。着工から実に40年あまりの歳月をかけた大工事でした。

その後、明治に入り、失火によって城の大部分を焼失してしまいます。現在は酒井忠勝公を祀る小浜神社が本丸跡に建立されています。

東京と小浜を結ぶゆかりの地

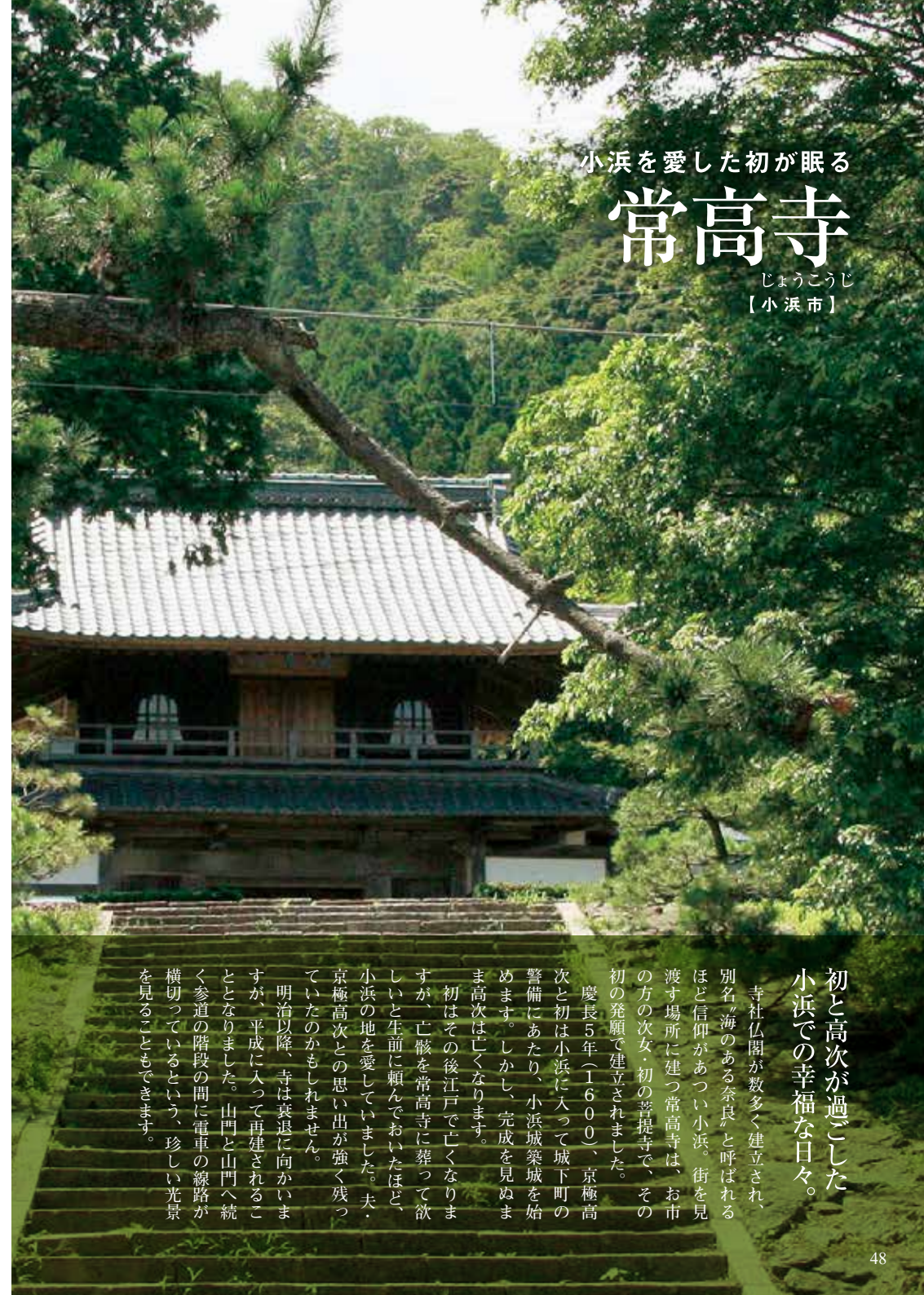
神楽坂

【東京都新宿区】
かぐらざか



江戸時代、小浜藩の江戸屋敷は東京神楽坂周辺（東京都新宿区）にありました。これは寛永5年（1628）に、酒井忠勝が三代将軍の徳川家光からこの地を拝領し、後に小浜藩の下屋敷としたのが始まりです。

神楽坂通りは、酒井家の下屋敷と牛込御門を結ぶ1kmの道を、忠勝の登城道として寛永年間に整備したものです。現在、神楽坂を登りきった矢来公園には、「小浜藩邸跡」と記された石碑が立っています。



小浜を愛した初が眠る

常高寺

じょうこうじ
【小浜市】

初と高次が過ごした
小浜での幸福な日々。

寺社仏閣が数多く建立され、別名「海のある奈良」と呼ばれるほど信仰があつた小浜。街を見渡す場所に建つ常高寺は、お市の方の次女・初の菩提寺で、その初の発願で建立されました。

慶長5年（1600）、京極高次と初は小浜に入って城下町の警備にあたり、小浜城築城を始めます。しかし、完成を見ぬまま高次は亡くなります。

初はその後江戸で亡くなりましたが、亡骸を常高寺に葬って欲しいと生前に頼んでおいたほど、小浜の地を愛していました。夫・京極高次との思い出が強く残っていたのかもしれませんが。

明治以降、寺は衰退に向かいますが、平成に入って再建されることとなりました。山門と山門へ続く参道の階段の間に電車の線路が横切っているという、珍しい光景を見ることができます。